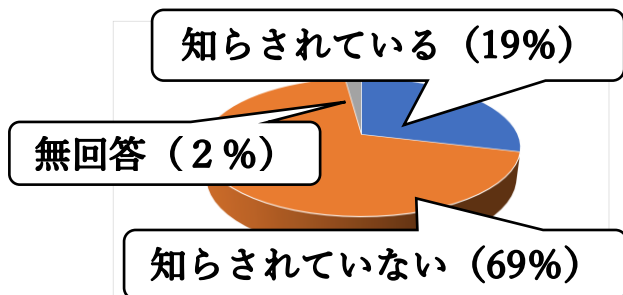


## 明和小・中一貫校化（義務教育学校化）アンケート結果の報告

私たちは、昨年8月と11月に標記のアンケートを実施しました。2回のアンケートに、354人件の回答をいただきました。このニュースでは、2回分の「結果とポイント」をお知らせします。

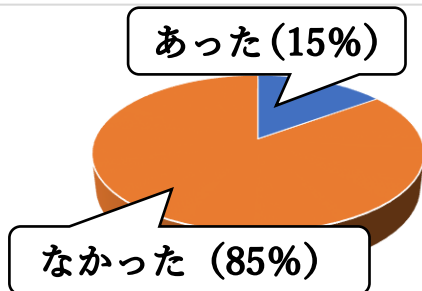
**質問1 あなたのことを教えてください。(今回のニュースからは割愛します)**

**質問2 一貫校化(義務教育学校化)のこれまでの動きや今後のことについて知らされていますか？**



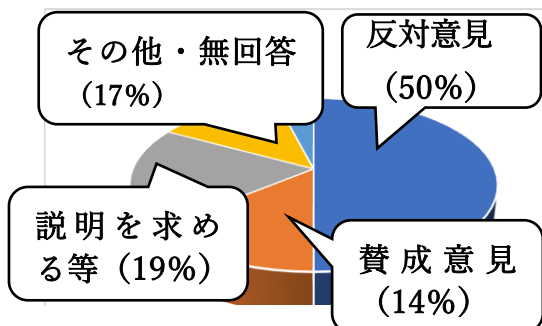
【ポイント】 小・中義務教育学校化は教育環境の大きな変化ですが、7割以上の方が「いろいろなことを知らされていない」と回答しています。子どもや保護者、地域住民が知らないまま進められていくことに多くの方が不信と不安を感じています。

**質問3 一貫校化(義務教育学校化)について、あなたの考えや意見を述べる場がありましたか？**



【ポイント】 文科省も市教委も「統廃合には、住民の合意形成が不可欠」としています。しかし、左のグラフから「合意形成の場がないこと」が分かります。一旦、義務教育学校化の動きを止めて、子ども・保護者・住民との協議の場をつくり、住民の合意形成からやり直すべきです。

**質問4 一貫校化(義務教育学校化)について、あなたの考えを聞かせてください。**



【ポイント】 左のグラフのように、義務教育学校化の動きに住民は「賛成」「反対」、そして「説明がなく判断できない」など様々な受け止めをしています。このように、合意形成ができていない状況で「義務教育学校化」を強行することは、非常に大きな問題です。とても大切な問題なので急がず、みんなで話し合うところからやり直して欲しいです。

ホームページを立ち上げました。今後もアンケートを受け付けます。

ホームページを立ち上げて、「明和小・中学校の『義務教育学校化』」に関する情報を発信します。この動きを一旦止、住民の理解と合意形成」からスタートさせるためには、明和のみなさんの声が必要です。声を寄せる方法は、①紙による回答。②右のQRコードから。



③ホームページの「ご意見・お問い合わせページ（アンケート用）（当会ホームページ）」（アンケートに書き込む。の3つの方法があります。

## 「義務教育学校」に関する説明会に参加される保護者のみなさんへ

### なぜ、「一旦白紙に戻しましょう」と訴えるのですか？

みなさんの中には、「創る会」の人たちは「どうして反対しているの？」という疑問をもつ方がおられると思います。そこで、私たちがなぜ「一旦白紙に戻しましょう」と言っているかを Q&A 形式でお示します。読まれて、「そうだね！！」とおっしゃる方々と手をつなぎ大きなうねりにして、明和小・中学校をこのまま残していきたいのです。

#### Q 子どもの数は、今後も減るの？

**A** ここ7年間、小学生の児童数は1クラス60人で推移しており、減少傾向ではありません。今後は、減少より増加する要素がありますよ！

要望書では、児童生徒数の減少を根拠に小・中学校義務教育学校化を要望しました。

しかし、子育て中の若い方の家が建っています。また、県営住宅跡地に商業施設の建設の計画もあります。今後、児童生徒数が増加する要素はたくさんあり、「学校規模適正化」に該当しなくなる可能性は大です。だからこそ、「白紙に戻してみんなで考える」ことが必要だと思います。

#### Q 中学校を残すには、「義務教育学校化」しかないんでしょう？

**A** いいえ！いい方法が、もう一つありますよ！

今日も、「小・中学校を残すには義務教育学校化しかない」と説明されるが、もっといい方法があります。それは簡単です。要望書を取り下げるのです。

本日の説明会でも、開校まで5・6年位かかると説明されるでしょう。この時間を無駄にせず、「まち協」のみなさんには「人口が増える魅力的なまちづくり」に頑張ってください、「学校規模適正化」の対象外になるというシナリオを描いてもらいましょう。

#### Q 義務教育学校にするとどのようなデメリットがあるのですか？

**A** 本来それぞれの時期に育まれるべきものが育たないことが、すでに導入した学校に勤務する教職員からも語られます。

今日の説明で、「義務教育学校にすることでバラ色の学校」になるかのような話があるかもしれませんが、しかし、義務教育学校になると、7～15歳までの年齢差のある子どもたちが同じ空間で生活します。いろいろなトラブルや課題が現れることが想像できます。

その危惧が現実化していることは、現場からの声でもわかります。

- ① 小学校文化（のびのびと遊び学ぶ）と、中学校文化（じっくり学習）の違いのすり合わせに時間と労力を費やす。その結果、子どもたちとの関わりの時間が削られる。（中学校教諭）
- ② 小学校高学年のリーダー性や責任感などが育ちにくいのと同時に、中学生の幼児化が進む傾向にある。（中学校教諭）
- ③ 子どもたちの環境の変化への対応や、「いじめ」の発生などが心配である。（保護者）

教育環境の変化は、未来を託す子どもたちに関わる問題です。だからこそ私たちは、「まち協」や「市教委」のみなさんに「白紙に戻してみんなで考える」ことを求めているのです。